神津島の火山活動解説資料（令和７年４月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１）

前浜南東監視カメラ（天上山の南西約３km）による観測では、天上山山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図２－①②、図３）

地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図２－③～⑥、図４）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。

図１　神津島　天上山山頂部の状況（４月 29 日、前浜南東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和７年５月分）は令和７年６月９日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています。

【計数基準の変遷】
高周波地震：2010年10月１日（観測開始）～　　天上山西から半径５km、深さ15km以内
低周波地震：2010年８月２日～2013年９月30日　天上山西上下動振幅0.8μm/s以上
　　2013年10月１日～　　天上山西上下動振幅4.0μm/s以上

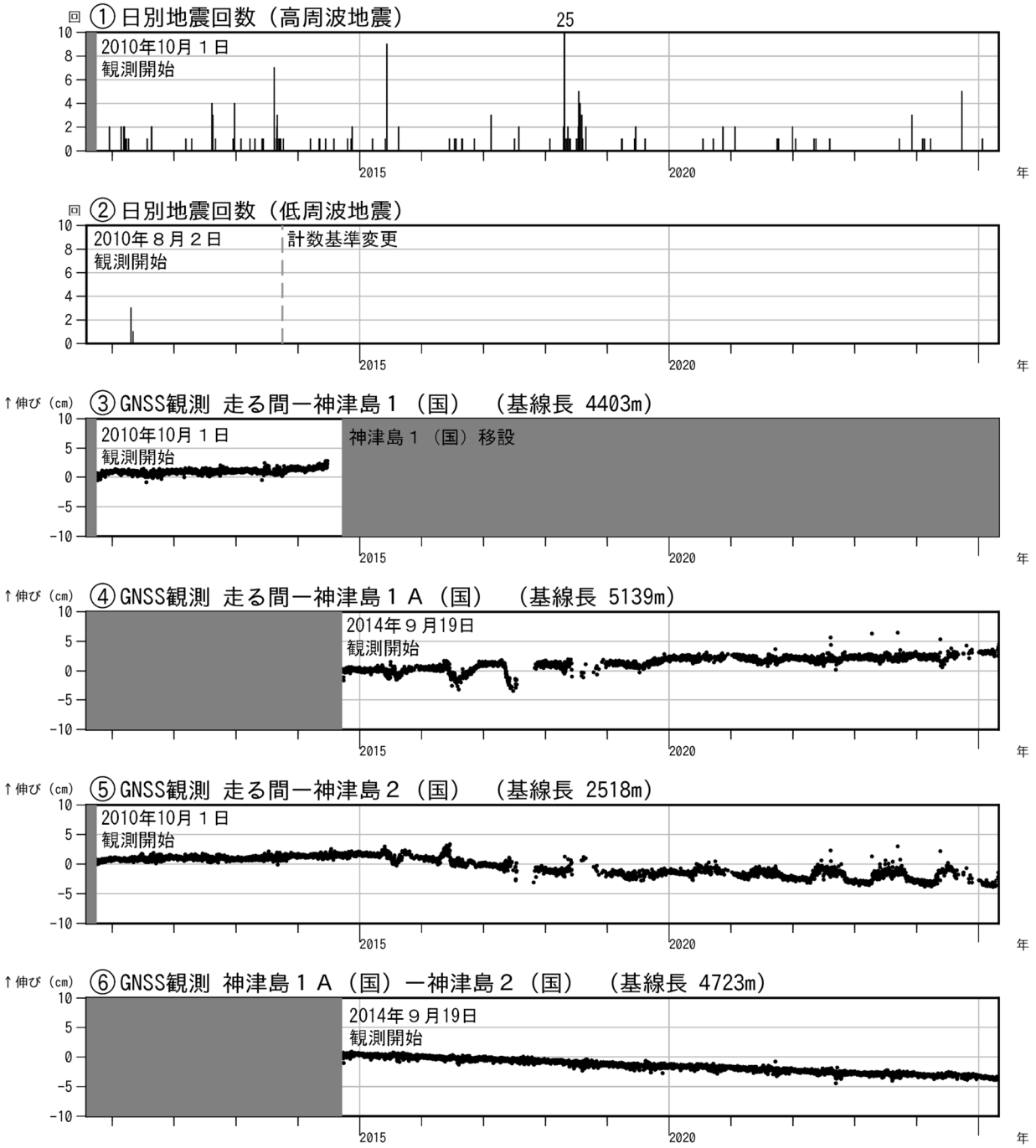
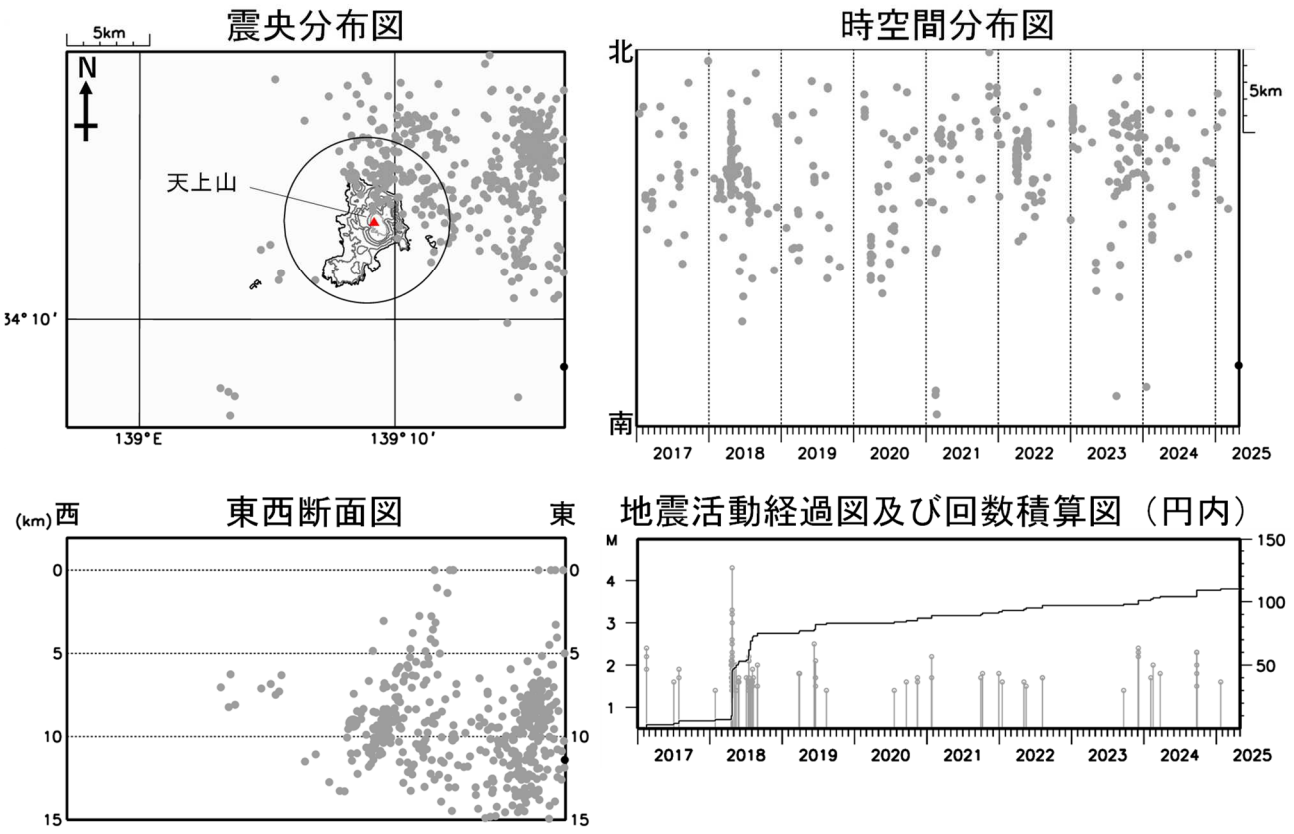


図２　神津島　火山活動経過図(2010 年８月２日～2025 年４月 30 日)
①、③～⑥：灰色部分はデータのない期間を示します。
③～⑥：図４の GNSS 基線③～⑥に対応しています。空白部分は欠測を示します。
④⑤：走る間観測点付近の植生による影響により、周期的な変動が見られます。
2014 年９月 19 日に、神津島１（国）は、神津島１Ａ（国）に移設されました。
データの解析方法を 2010 年 10 月及び 2016 年１月に変更しています。
（国）：国土地理院

・地震活動は低調に経過しました。
・GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



●：2017 年１月１日～2025 年３月 31 日　●：2025 年４月１日～４月 30 日

図３　神津島　広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2017年１月１日～2025年４月30日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年９月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。

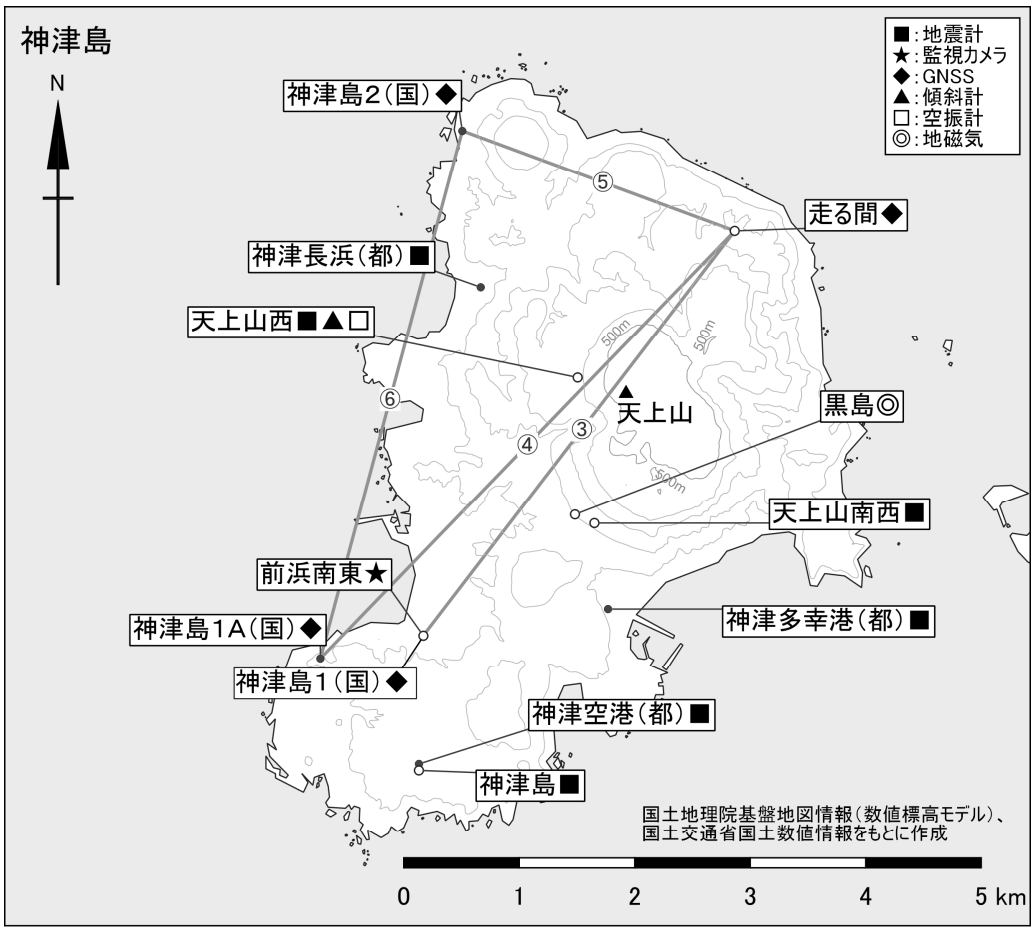
Ｍ（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.4 以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象（天上山西から半径約５km、深さ約 15km 以内）以外の地震が含まれるため、図２－①の日別地震回数（高周波地震）とは異なります。

震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（天上山西から半径５km、深さ 15km 以内）の範囲を示しています。

・地震活動は低調に経過しました。



小さな白丸（◯）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（都）：東京都

図４　神津島　観測点配置図
GNSS 基線③～⑥は図２の③～⑥に対応しています。
神津島１から神津島 1A に 2014 年９月 19 日移設。